

text: Kenji NAKAMOTO (中本 健二)



## 伊勢志摩の魅力を味わう2日間

1980年までに生産されたスポーツカーが参加する公道ラリー、第6回ヒストリックカーミーティングイン伊勢・志摩が12月1日、2日にかけて開催された。全国から50台以上が集まり2日間のラリーを楽しんだ。12月の開催ということで、ラリー1日1日夜のパーティーでは、クリスマス気分を盛り上げるプログラムが盛り込まれていた。

イベントのメインといえるコマ図ラリーは1日目は南伊勢町、2日目は志摩市の協力を得て、漁協の駐車場を使ったスペシャルステージや、南勢中学校から

町民文化会館までのパレード。他にも伊雑宮の参拝など、地元のサポートがあったからこそ実現可能なステージが多数盛り込まれており、6回目の開催を数えるが、毎回違った面白さを発見できる。また観光名所だけでなく、海岸線やワインディングを通るルートが積極的に設定されていたため、P.C間の移動も実に魅力的だった。

さらに今回は個人競技に加えて、3台でチームを組んで競うチーム競技も組み込まれ、新たなスパイスをイベントに加味。また、前回好評だった伊勢志



南伊勢町町民文化会館の駐車場では、地元有志による和太鼓の演奏が披露された。地元の方々も多く詰めかけ、貴重なヒストリックカーと記念撮影する姿が多く見られた。



地中海スペイン村で午後のティータイム、ホットなイベント参加者は、この後3連続P.Cをクリアして、1日目のゴール会場となるアクアヴィア伊勢・志摩を目指す。



P.C.競技に臨む前には、旗を走るクルマの走行ラインやおおよそのペースをつかむ。1/100秒単位で目標タイムを目指さなければ上位入賞は難しい。



ドライブインにてひと休憩。競技の途中ではあるが、時間調整を利用して時産品やお土産を買いこむ姿も多く、和やかなムードで競技は進む。



集合地点の伊勢からリゾート千の杜に集合した参加車両。今回は52台がエントリーした。競技終了のゴール地点も同じ千の杜に設定されている。



3連続P.Cが設定された南伊勢町の賢浦漁港へ集まるエントリー車両。ここではランチ休憩の場ともなっており、地元でとれた新鮮な海の幸が提供された。

摩スカイラインを一時封鎖し7.5kmにもおよぶロングP.Cも組み込まれるなど、参加者を満足させるプログラムに満ち溢れた2日間となっていた。

次回は5月ごろの開催が予定されているので、気になる方は愛車の準備をお忘れなく。

**EVENT DATA**  
ジャンル:公道ラリー  
エントリー車両:1980年までに生産されたスポーツカー  
開催日:2012年12月1日-2日  
開催地:愛知県 伊勢志摩地方  
問い合わせ:ヒストリックカーミーティング実行委員会  
URL: <http://thishistoriccarmeeeting.com/>

**Report Memo**  
公道ラリーの競技性に加えて、伊勢、志摩の観光スポットに多く立ち寄ることが出来る。1日2日のイベントスケジュールで、総走行距離は長くはないがワインディングや美しい海を見ながら走るルートが多く、ロケーションも大きな魅力だ。



競技を終えた参加者を労い、夜は一足早いクリスマスパーティが開かれた。また、中間成績の発表も行われ、パーティーを存分に楽しむ人、次の日へ向けに力を引き締める人と参加者もそれぞれ。



2日目の競技の目玉は、伊勢志摩スカイラインを一時封鎖して行われるロングP.C.競技。1本目は5.5km×6分30秒、2本目は2.0kmを2分10秒というタイムが設定されていた。



①1993フェラーリ・モンディアルT/石川昭仁、藤井亮己ベア ②1961年式MGA1800MkII/斉藤昭義、逢原さんベア ③1974年式ティノ246gts/鈴木健、井澤永ベア ④1967年式シトロエンDSデカボタブル/菅波、永田賢孝ベア ⑤1967年式ジャガー・モタイル/菅波、小関浩美、牧野麻耶 ⑥2007年式モーガン4/4/鈴木尚志、ヨハン・ホルスターベア。



**ドルフィングレーの356で快走**  
1964年式ボルシェ356Cカブリオレで参加の今宿良昭、照代さんベア。1日目は想像の冷え込みで体調を崩してしまっていたが、2日は調子を取り戻し快走を見せた。356の他にも911やカイエンも所有する根っからのボルシェ党。



## イベントに合わせてスーツを新調



フェラーリF430やF40などに乗ってきた3年程前から旧車の魅力にハマったという1969年式ティノ246gtで参加の田嶋久美、真弓ベア。久美さんは、レーシングスーツに今回のイベント名を刺繍で入れるという気合の入れようだ。



**17時間をかけて九州から参加**  
久留米から約17時間をかけて1956年式ボルシェ356スピードスターで会場入りしたという吉塚隆一郎さん、崎村健さんベア。吉塚さんは、ナビゲーターの経験は多いそうだが、ドライバーとしてはデビュー戦とのことだった。

## 356が大挙として参加

今回のヒストリックカーミーティングで最大派閥を築いたボルシェ356。A、B、Cそれぞれの年代が揃い、スピードスターやカブリオレなどがディバリエーションの途いも見て楽しむことが出来た。主催者の大野さんによると、今回は356クラスを設定するというプランも考えているそう。

伊勢神宮内宮の別宮、伊羅宮の駐車場に並ぶ参加車両。これまでクルマのイベントで使われたことはなく、今回が初の試みとなった。ここでは美しい景観を眺め昼食となった。



クリスマス仕様のエランで参戦

ヒストリックカーミーティングにはほぼ参加しているという向山博通、廣子ペアは1970年式ロータス・エランSPRINTで東京からエントリー。クリスマス飾りやデカールで愛車を飾りイベントの雰囲気を盛り上げる。



- 1 1970年式トヨタ200GT/森田典尚、めぐみペア
- 2 1968年式トヨタ200GT/芳野正明、志美ペア
- 3 トヨタ・スポーツ800/稲垣隆夫、和子ペア
- 4 1959年式フェラーリ196Sディーノ/村瀬啓方、教友ペア
- 5 1952年式スタンレーグリーニ/三田崇さん
- 6 1947年式チンチア202F/沢田正樹、田中満香ペア



興味を引かれて乗り換え

いつかは乗ったみたかったという思いから、1年前前にボルシェ356から1953年式オースチン・ヒーレー100に乗り換えたという杉本忠昭さんは石黒敬三さんと参加。低いレーシングスクリーンや追加されたフォグランプなどのモディファイが光る。なんと普段の移動は996のGT3というから驚きだ。



連続総合優勝を獲得

1957年式のアルファロメオ・ジュリエッタ・スパイダーで参加の磯部光伸、鶴巻裕士ペア。なんと前日に続いた総合優勝を達成した。勝利の秘訣はターゲットタイムの5秒前にいるポイントをしっかり見極めることだった。



ヒストリックラリーにハマりそうな予感

ラリー初体験という高島登、橘宜保ペアは1966年式メルセデス・ベンツ230SLで参加。2日目の伊勢志摩スカイラインではエンジンがかかり苦労したが無事にゴールまで走り抜き、特別賞を獲得している。



- 1 1967年式アルファロメオ・ジュリアスパー/後藤啓文、安藤みゆき、安藤海雄
- 2 1961年式アルファロメオ・ジュリエッタ・スプリント/永田哲也、浜崎雅代
- 3 1957年式メルセデス・ベンツ190SL/清水敏光、榎原真由美
- 4 1973年式ロータス・エランプラス2/安藤武彦、佳代
- 5 ボルシェ914/新家利康、小山陽三
- 6 1952年式MG TD/平野真正、長塚吉貴



スペシャル枠でラリーへ参加!

今回はイベント参加者に紛れて最新のメルセデス・ベンツSL550で競技車両とは別枠ながら、同じルートを走りPC競技も体験することができた。公道ラリーの競技中はもちろん、片道450kmほどのイベント会場への移動も疲れることなく快適に移動することが出来た。



START

片道450kmほど離れたかざりリゾート千の柱を目指して出発。8:30に受付開始なので家を出る。



参加者の多くが楽しみにしていたプログラムが、伊勢志摩スカイラインを占有して行われるロングPCだ。



急こう配をもとめず突き進むSLに驚きながら、対向車の心配なくスカイラインのドライブを楽しんだ。



トイレに寄ったぐらいで、休憩なしのロングドライブながら疲れしらす。SLの出来に感心しつつセッティング。



競技2日目は、由緒正しき伊羅宮に参拝。同駐車場にて昼食と休息をとりメインプログラムへ向かう。



スカイラインを登り切ったところに現れる朝熊山展望台。あじいくの曇り空だったが絶景を望むことが出来た。



今回のイベントの先導車。クリスマスに合わせて(?)BMW・Z4は赤を選択。ドライバーも赤の服装で統一。



志摩地中海村にてティータイム。ホットー息ついて、最後のP.Cをクリアすると1日目の競技は終了。



南伊勢の人気ゆるキャラタイムもイベントを盛り上げる。おそらく土産の鯛とミカンがモチーフかと。



こんな顔で走られたら威圧感を与えそうなので、適度に距離を保ちつつイベント参加車両を道路。



南伊勢町町民文化会館では、みかんの試食や和太鼓の演奏が行われた。参加者の中には踊りだす人も。



展望台で頂いた金平糖を食べつつ、千の柱を目指す。コースは比較的舗装で、コースミスなくゴールを迎えた。



1日目の昼食は賢漁漁港にて海の幸満載の弁当をいただく。もちろん焼きカキとアサリの味噌汁が付いてくる。



競技の途中には、レードが組み込まれた。道行く人や対向車のドライバーが驚きの表情で見つめる。



スタートと同じゴール地点の千の柱へ戻った。走りっぱなしの2日間だったが、どれだけ走っても疲れしらす。



昼食をとると同じ漁港の敷地内で3連続のPC競技へ挑戦。1/100秒を争うというハイレベルに挑戦。



地元の人にとっては見慣れた海岸沿いの道路だが、普段見ることの出来ない側としては絶景だ。



スタートと同じゴール地点の千の柱へ戻った。走りっぱなしの2日間だったが、どれだけ走っても疲れしらす。

チーム対抗戦を開催

伊勢志摩スペイン村の駐車場を舞台に新しい試みとして行われたのがチーム対抗戦だ。3台1チームとなり、リレー感覚でターゲットタイムを目指す。息のあったチームもいれば、最終走者が必至で追いつけるチームも見られた。



優勝を遂げたのは同じショップを馴染みとするメンバーで構成された"ガレージツインカム"チーム。メンバー全員がイベント経験豊富で、息の合ったチームプレイを披露した。



Eタイプ2台とXK120とジャガー3台で挑戦。走り切った後の感想は上々で、ガッツポーズも披露されたが残念ながら優勝とはならず。次回に期待したい。



同年代同士でチームを組み、息の合った快走を見せたもののガレージツインカムチームには届かず。結果は振るわなかったが、チーム戦を存分に楽しんだ様子だった。

